

不登校の現状と取組について

2020年1月16日(木)
豊見城市学校教育課

不登校の定義

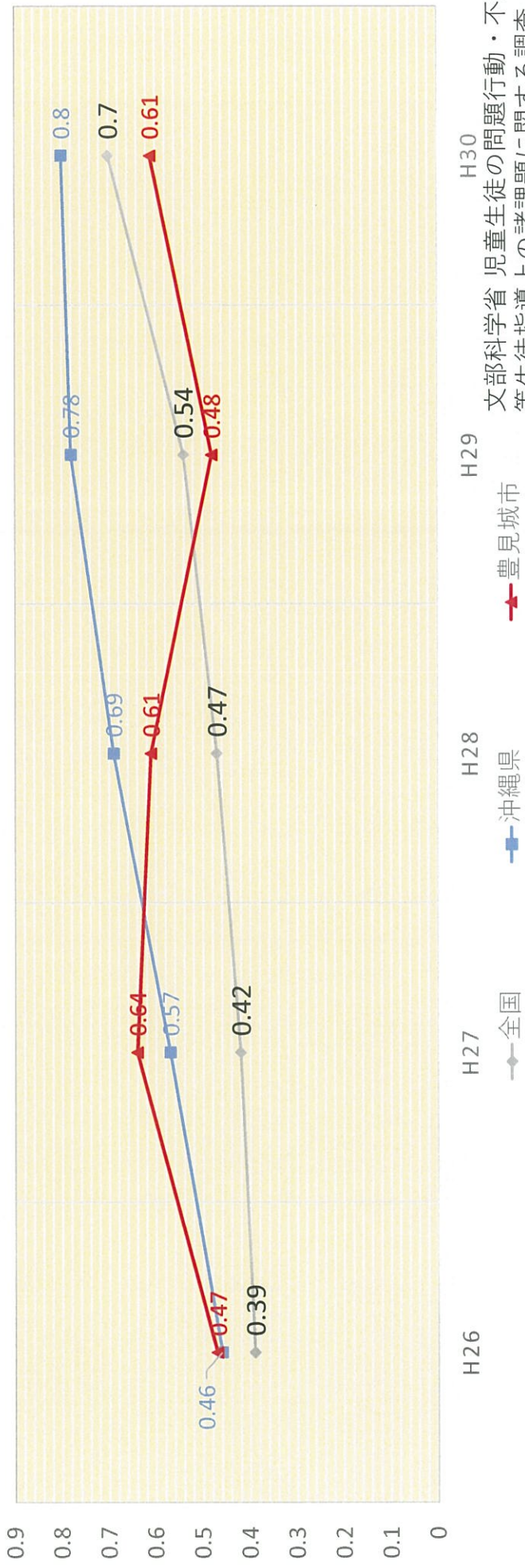
何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの

(文部科学省)

不登校率の推移 (小学校)

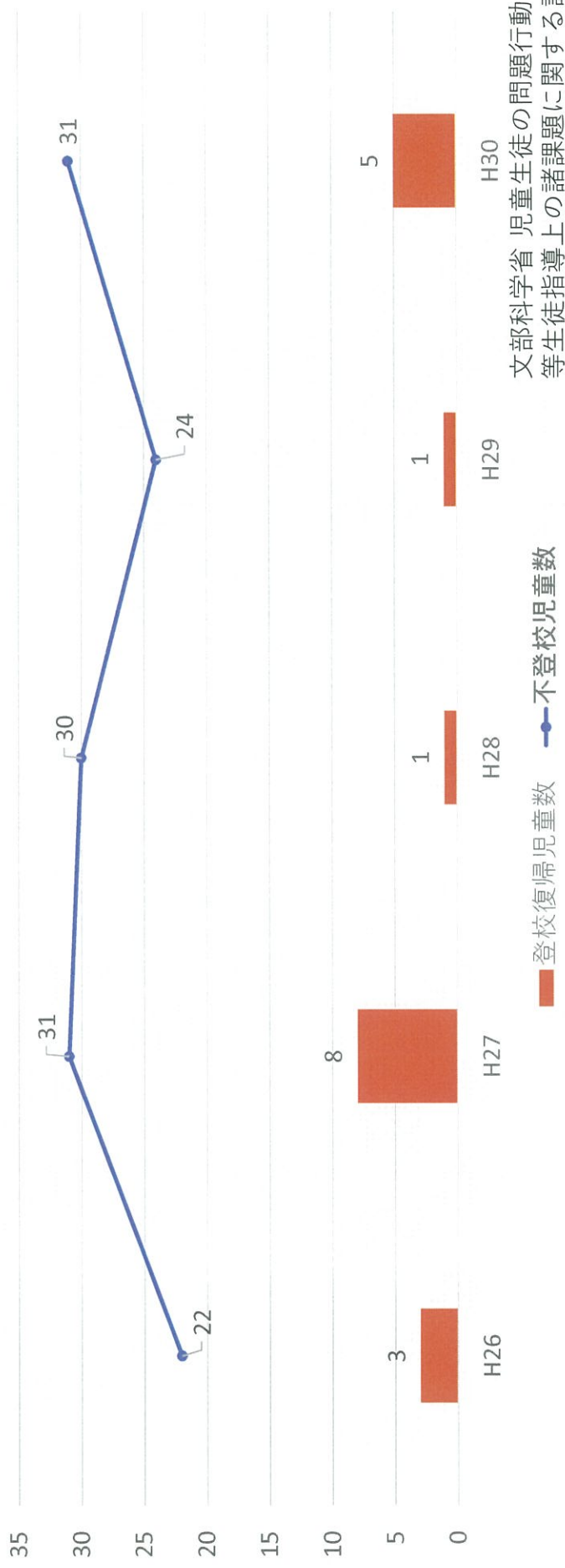
(%)	H26	H27	H28	H29	H30
全国	0.39	0.42	0.47	0.54	0.7
沖縄県	0.46	0.57	0.69	0.78	0.8
豊見城市	0.47	0.64	0.61	0.48	0.61

不登校率 = 不登校児童生徒数 ÷ 全児童生徒数



不登校からの復帰状況（市内小学校）

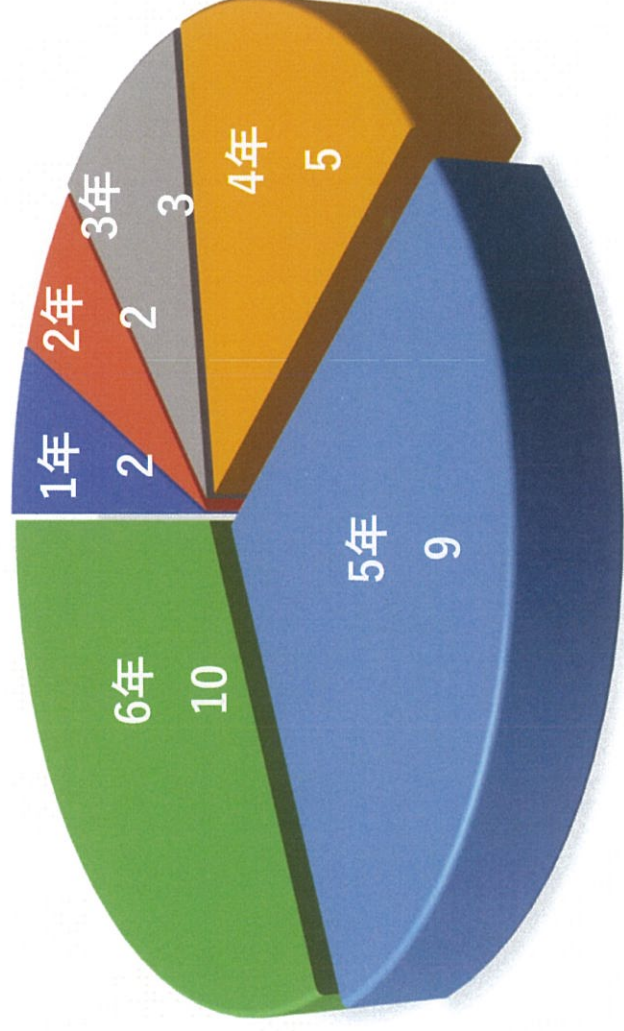
豊見城市	H26	H27	H28	H29	H30
不登校児童数	22	31	30	24	31
登校復帰児童数	3	8	1	1	5
登校復帰率	13.6%	25.8%	3.3%	4.1%	16.1%



文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

■ 登校復帰児童数 ● 不登校児童数

学年別不登校（市内小学校）

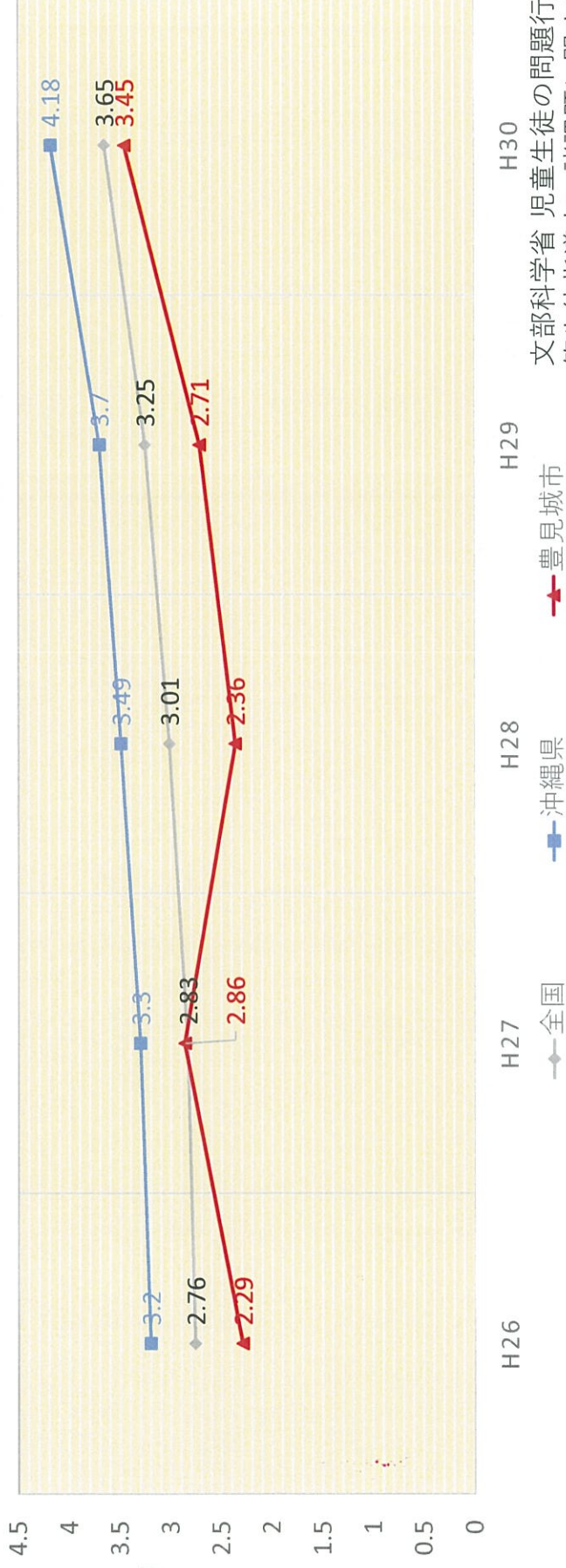


平成30年度不登校児童数42名(前年度比7名増)

不登校率の推移 (中学校)

(%)	H26	H27	H28	H29	H30
全国	2.76	2.83	3.01	3.25	3.65
沖縄県	3.2	3.3	3.49	3.7	4.18
豊見城市	2.29	2.86	2.36	2.71	3.45

不登校率 = 不登校児童生徒数 ÷ 全児童生徒数

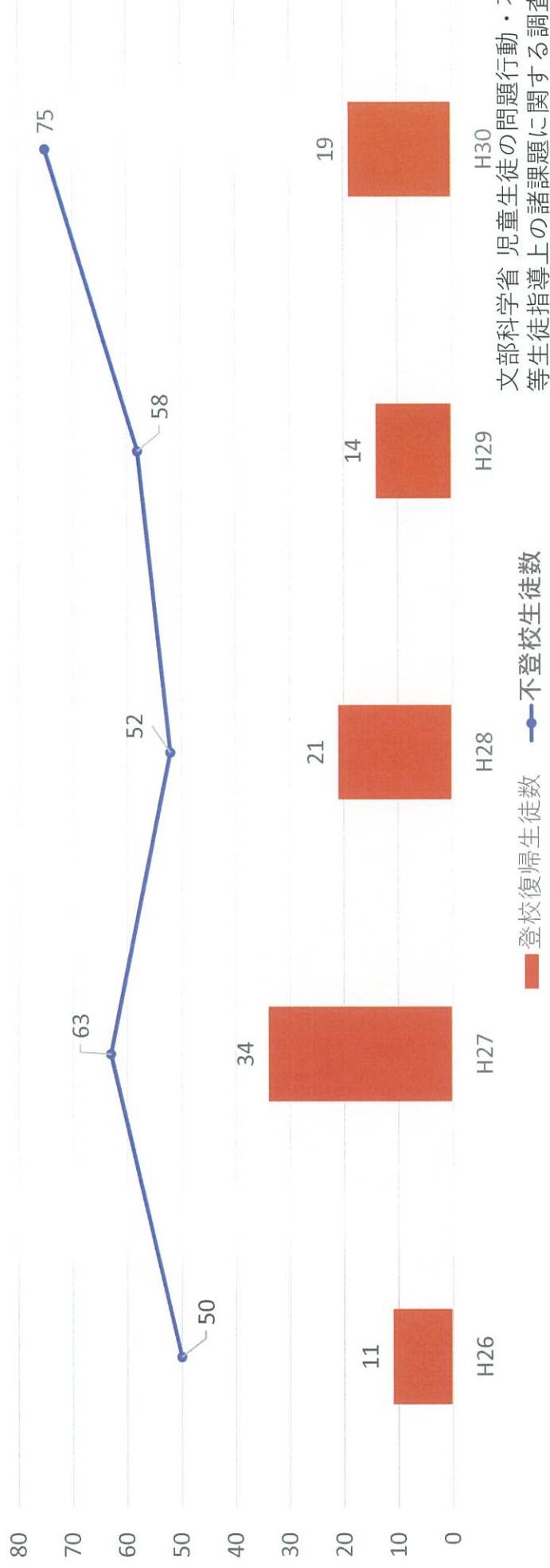


文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

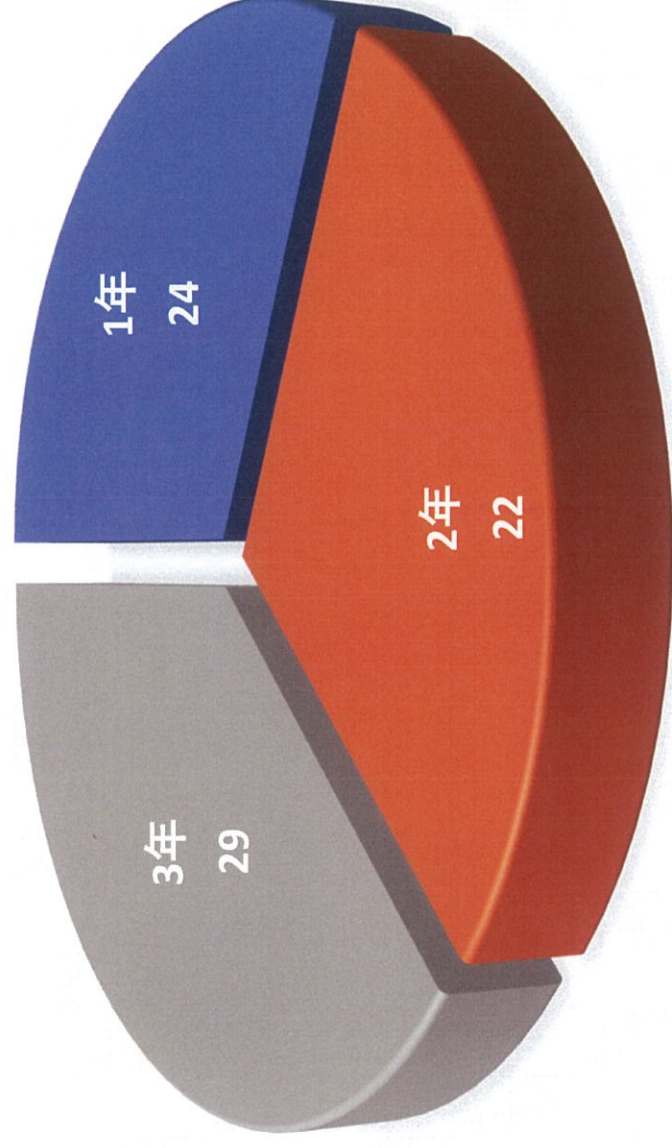
不登校からの復帰状況（市内中学校）

豊見城市	H26	H27	H28	H29	H30
------	-----	-----	-----	-----	-----

不登校生徒数	50	63	52	58	75
登校復帰生徒数	11	34	21	14	19
登校復帰率	22.0%	53.9%	40.3%	24.1%	25.3%

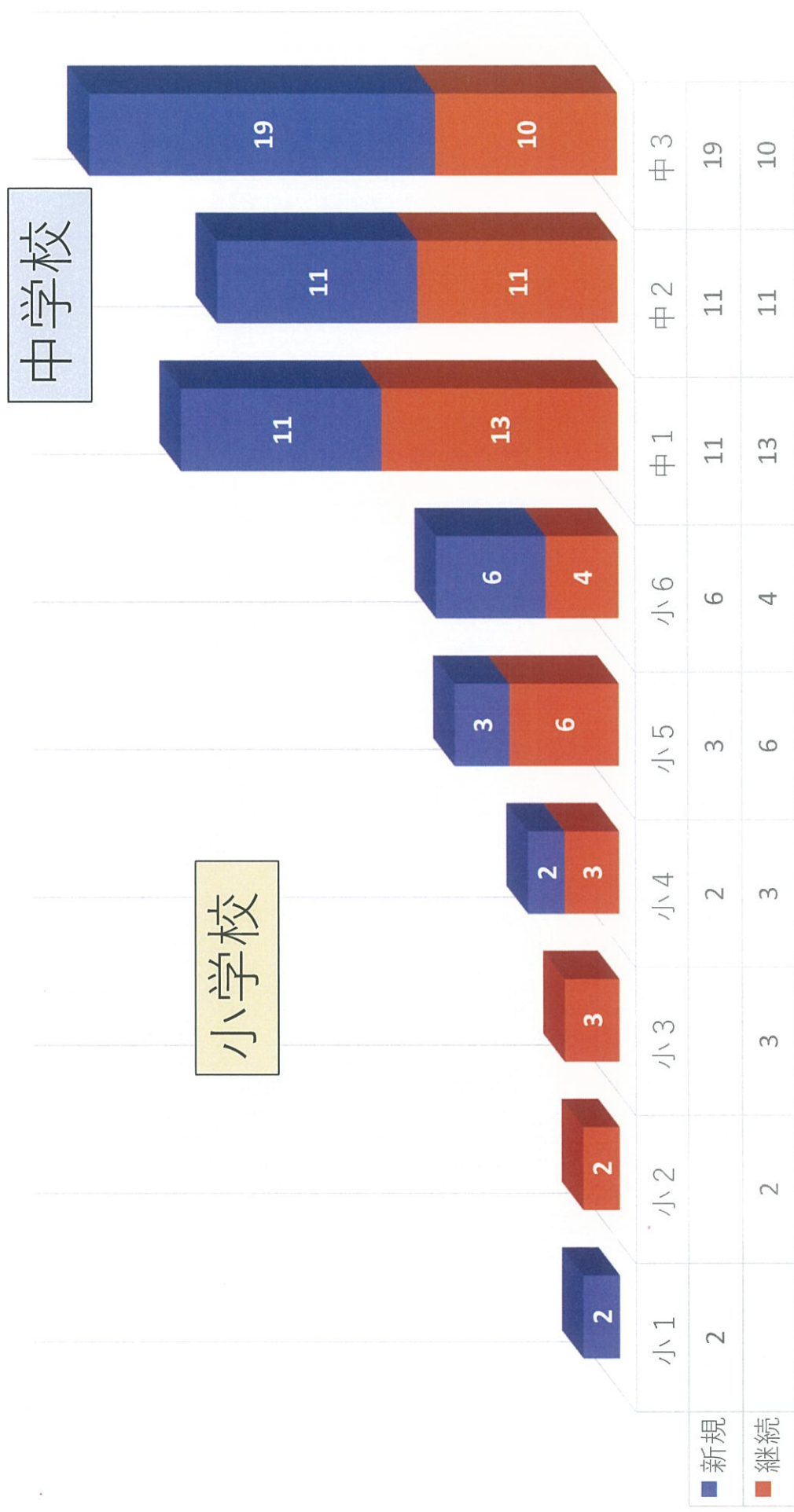


学年別不登校（市内中学校）



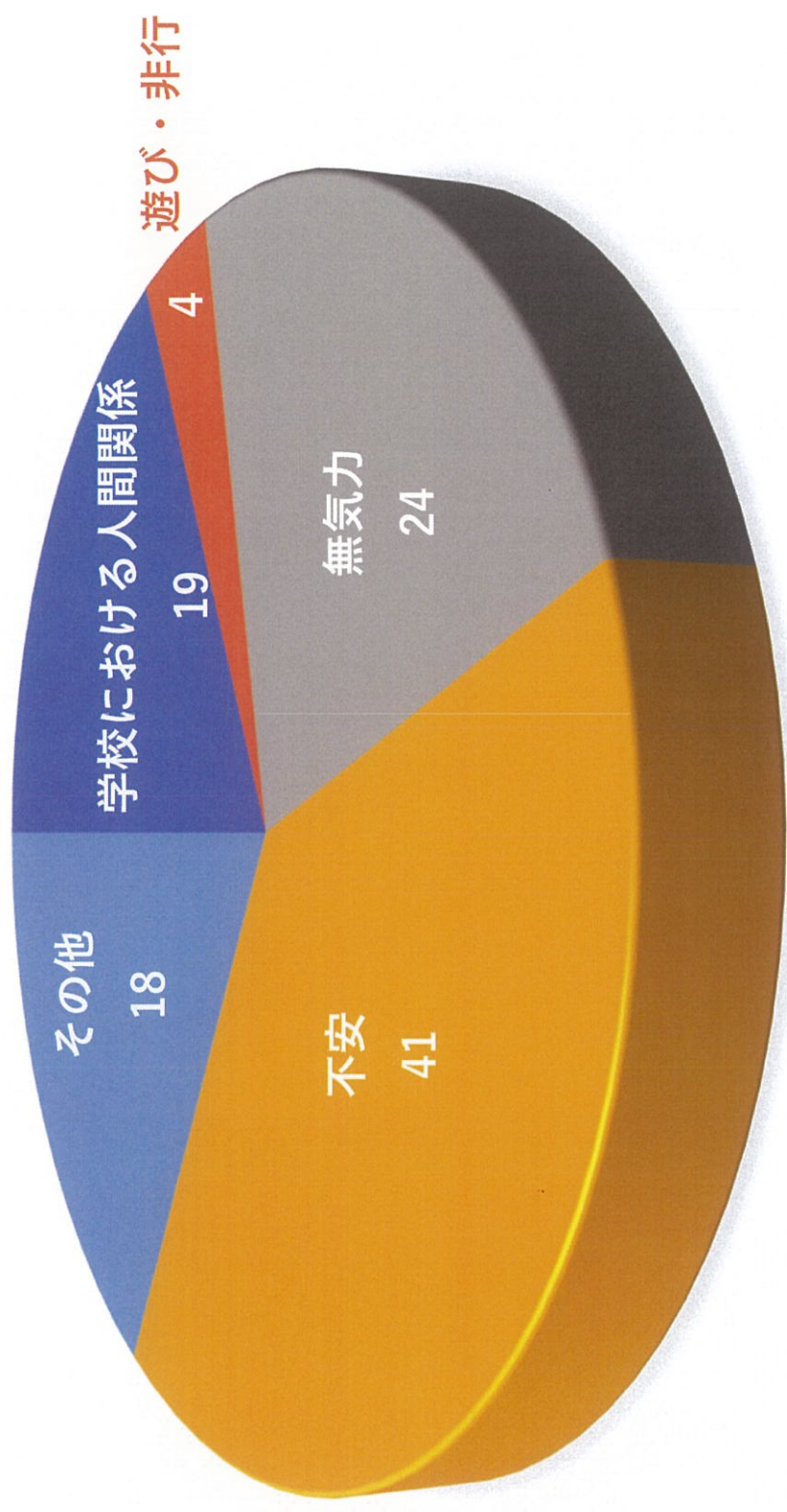
平成30年度不登校生徒数75名(前年度比 **17名増**)

H30年度市内不登校児童生徒状況（新規と継続）



文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

H30年度市内不登校児童生徒の分類（小中計106名）



「遊び・非行」傾向は減少し、「不安」「無気力」傾向の不登校が増えている。

文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

市教育委員会の取組

- ①SSW・支援員・相談員の配置
 - ・SSW（スクールソーシャルワーカー3名）・・・中学校区
 - ・登校支援員(4名)・・・小学校
 - ・心の教室相談員(3名)・・・中学校
 - ・学習支援補助員(1名)・・・中学校
 - ②適応指導教室「とよむ教室」
 - ・主任教育相談員(1名)、学習支援補助員（2名）
 - ・12月現在 小学生7名、中学生5名
- ※入室体験または相談中 6名

市教育委員会の取組

- ③豊見城市不登校支援リーフレットの作成
 - ・1月に市HPに掲載、年度内に全教職員及び全保護者に配布予定
- ④5月に「教育相談学校訪問」を実施
 - ・不登校への対応及び関係機関との連携について周知
 - ・指導主事、適応指導教室主任教育相談員、SSW子育て支援課、社会福祉協議会

市教育委員会の取組

- ⑤「毎月の不登校状況」について学校から報告
 - ・各校の状況について把握に努める
- ⑥教育相談担当者等連絡会の実施
- ⑦ケース会議への参加

豊見城市不登校支援リーフレット

豊見城市教育委員会

不登校とは？

定義：「何らかの心理的、情動的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいははしなくともてきない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病氣や経済的な理由による者を除いたもの」(文部科学省)

不登校は、取り巻く環境によっては、どの子にも起こり得ることとして捉える必要があります。不登校の要因や背景は多様かつ複雑であり、子供により様々です。即効性のある手立てや全ての事例にあてはまるような方策はないと言えます。しかし、関係機関等が連携し、未然防止や初期対応に取り組むことで、一定の効果が期待できると考えます。

こんな様子が見られたら...

家庭で

- 朝になると頭痛や腹痛を訴える。
- 「学校に行きたくない」と訴える。
- 朝起きられなくなると遅刻する。
- 部屋に閉じこもりがちになり、夜遅くまでスマホやゲームなどをして昼夜が逆転している。
- 学校のことを聞くの不機嫌になったり、はぐらかしたりする。
- 生活全般で、意欲が低下している。

学校で

- 休み明けや特定の曜日に休みが多い(保護者からの病氣届けも含む)。
- 病欠でない休みがある。
- 保健室利用が増えてきた。
- 学習意欲が低下している。
- 特定の教科で欠席や欠課、遅刻が繰り返される。
- 部活動を休みがちになる等、放課後の過ごし方が変わった。
- 仲の良い友達と一緒ではない、一人でいることが多い。

学校でも家庭でも丁寧な初期対応が大切です。学校と家庭がしっかりと連携をとりながら、子供の話をじっくり聞き、寄り添うようにしましょう。

★確認★

不登校防止としての家庭の役割

- (1) 基本的な生活習慣の確立
早寝・早起き・朝ご飯の定着 「Go家運動」「愛のー声運動」の推進
- (2) 家庭学習の習慣化
- (3) スマホ・携帯電話の「我が家ルール」づくり
使用時間の制限やフィルタリング機能の設定

不登校に取り組む「3つのステップ」

自立支援
長期間欠席している
児童生徒への支援

初期対応
休み始めた
児童生徒への支援

未然防止
全ての児童生徒への支援

「チーム」で支援する校内体制づくり

学年主任
学年

学級担任

管理職
(管理職のリーダーシップ)

生徒指導主任
教育相談担当
特別支援教育
コーディネーター
養護教諭
教科担任

市適応指導教室(とよむ教室)
県立総合教育センター
医療機関・SORAE・民生員など

スクールカウンセラー
スクールソーシャルワーカー
登校支援員・アシスト相談員
心の教室相談員



不登校の対応、ケア

- チームによる支援体制 ○ 専門家・関係機関との連携
(市適応指導教室・県立総合教育センター
・子育て支援課・医療機関・SORAE等)
- 状況に応じた柔軟な対応

早期発見・早期対応

- 早期発見：管理職を含め全職員での情報共有
(情報の可視化)
(例：職員室で欠席者の記入板の活用等)
- 早期対応(例)
欠席1日目…担任による家庭への電話等の確認
欠席2,3日目…担任による家庭訪問、担任外での
保護者相談(登校支援員の活用)
欠席4,5日目…管理職の家庭訪問等、校内支援チー
ムの立ち上げ、市教委への連絡
欠席6日目以降…チームによる支援(ケース会議)
(SSW, SC, 支援員との連携)

安心安全な魅力ある学校づくり

- 支持的風土のある学級・学校づくり
- いじめ、暴力行為を計さない学校
- わかる授業づくりの推進
- 保護者と連携した状況の把握と改善

※SSW…スクールソーシャルワーカー
SC…スクールカウンセラー

学校の取組

- ①安心安全な魅力ある学校づくり
 - ・支持的風土のある学級・学校づくり
 - ・いじめ・暴力行為を許さない学校
 - ・わかる授業づくりの推進
 - ・保護者と連携した状況の把握と改善
- ②管理職のリーダーシップのもと「チーム」で支援する体制づくり